

編集後記

コロナ禍で、地球上の人類が、感染し、死亡し、恐怖し、疲弊している未曾有の状況下にあっても「明日の臨床」に興味深い論考が寄せられた。

- * アルコールの邦語は酒精だ。^{アルコール}酒精依存症(酒精使用障害と改名)を題材にした映画「失われた週末」は、青年の挫折と破綻を描いた。果たして「酒は百薬の長か、将又、万病の元か」。酒精は違法薬物ではないが国家の税収源でもあり、その規制への抵抗勢力は侮り難い。奥田論文はその難題に果敢に挑戦された。
- * 甘草の摂取量が多く長時間服用すると偽アルドステロン症や低カルシウム血症が起こりやすい。その要因としてグリチルリチン(GL)に注目した能勢論文は、五味子エキスがPHを低下させGLを抑制することを解明し漢方薬の今後に貴重な一石を投じた。芍薬は甘草と決別するのか？
- * ポケットサイズエコー(POCUS)の有用性を豊富なデータで示した水間論文は、伝統的な視診・触診・打聴診にPOCUSを加えることで緊急性の判断がより迅速になると、21世紀型の往診を率先垂範した。診察室を持たない町医者に強力な診断ツールがあることを教えた。
- * 井戸田論文は若年層のスポーツ障害に警鐘を鳴らした。成長途上の軟骨・靭帯・骨端は早期過剰使用により壊れやすい。開始や運動量の適正年齢指針がスポーツ医学にも必要かも知れない。映倫のPG-12、R-15の鑑賞年齢制限のように、発達段階に応じた指針が出ると良い。

.....

過ぎたるは及ばざるが如し。過剰な飲酒や運動は禁物だが個体差もありそうだ。^{クスリ}薬はリスクだ。漢方も例外ではない。生体信号履歴を患者がアプリで呈示する時代、POCUS持参の往診も今日のだ。

ところで、投稿論文の減少で「明日の臨床」も臨終の床にある。蘇生するか否かは、日夜医学・医療の研鑽に暇のない読者の皆様次第である。

(編集委員 粥川裕平)

編集委員 (50音順 *印委員長)

池山 淳* 粥川 裕平 杉藤 徹志 高橋 英世
平井 長年 松本 美富士 三浦 義孝

明日の臨床

Vol. 33 No. 1

2021年4月25日発行

編集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎(052) 832-1345

制作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部